

發大慈悲，將欲救拔

世間不離生滅法，人事萬般は無常；
菩薩通達諸法、安住實相，不忍衆生執迷虛妄假相，
所以發大慈悲救拔苦難、常轉法輪廣演佛法。

種下得助福緣

問：「佛教講因緣果報，苦難既是應受的果報，唯受之方能消除，若解除苦難，會不會讓這分業報因而無法消除？」

答：「莫認爲苦難人『理所當然』要承受苦果苦報，應知正因有眾生苦難，啓發自己的愛心去救濟，個己才有修行成佛的機會，要心懷感恩。」

「在佛教稱人間爲娑婆世界，意即堪忍世界。生於娑婆的眾生有種種苦難，佛陀即爲教導眾生脫苦而來人間。然而，能與佛同世，是過去生曾有因緣；同理，苦難人也需有福才能遇到生命中的貴人，若無緣，即使有人想伸手相助亦會有種種阻礙，無法觸及。」

「所以，慈濟人走入人群教富濟貧、濟貧教富，教導受助者雖然生活貧困，只要發心付出一份愛，即種下福因；有福因福緣，才有得到救助的機會。」

出自證嚴法師《說法無量義無量》。

「問」爲會衆所問，「答」爲證嚴法師所答。

慈悲心を発し、苦難救済

訳 / 小野雅子

この世において、生滅の理を離れて語ることは出来ません。世の全ては無常です。

菩薩は深く諸法を悟り、実相に安住しています。

しかし偽りのこと、真実ではないことに執着する衆生を見るに忍びず、

慈悲の心を発し衆生を苦しみから救い出し、仏法を説き、広く言伝えているのです。

福因を積みれば福縁が得られる

問：仏教では因縁果報を説いています。故に苦難が受けるべき果報であるならば、唯ひたすらそれを受け入れれば、業を消すことが出来るはずです。しかしその苦難を取り除いたら、その業を消すことが出来なくなるのではないのでしょうか。」

答：苦難に見舞われている人を「苦の果報を受けるのは当然のこと」と思っで見捨ててはいけません。苦難に見舞われている衆生こそが、私達に愛の心を啓発し、人に手を差し伸べさせてくれ、私達が修行を積み成仏できる機会を与えてくれているのです。ですから、感謝の心を持ちましょう。」

仏教では、私達が生きるこの世界のことを娑婆と言います。即ち堪え忍ぶ世界です。お釈迦様は、様々な苦しみにあえぐこの世界に生きる衆生を教え導き、苦しみから救い出すため、この世にやって来ました。そして、お釈迦様と同じ時代に生きることが出来た人は過去に因縁があった人です。ですから、苦難の人も福があれば、手を差し伸べてくれる人に出会えます。縁がなければ、たとえ誰かが手を差し伸べたくてもすれ違うのみです。

慈濟人は人々の間に分け入って「教富濟貧」や「濟貧教富」を説きます。例え支援を受け、生活が苦しくとも、愛を捧げる気持ちを起こせば、即ち福の因を積む事ができます。そして福の因縁があれば、助けを得る機会が得られるのです。

訳注 / 「教富濟貧、濟貧教富」：裕福な人も貧しい人も、

それぞれの思いを生かし福因を積む事ができるという事。